

埼玉県における産業動向と見通し

産業天気図は、最悪期を脱するも、回復テンポは鈍い

概況

わが国の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にある。このところ、持ち直しの動きもみられるが、感染拡大の防止策を講じながらという制約もあり、コロナ前の水準を回復するには時間を見る見込みである。

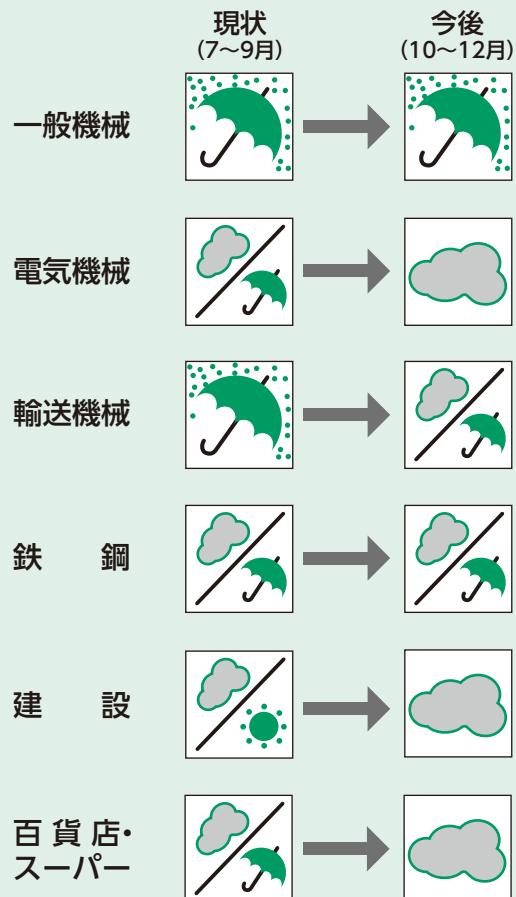
聞き取り調査の結果、埼玉県の産業天気図は厳しい状況となっている。7~9月期の天気図は、一般機械と輸送機械が「雨」、電気機械、鉄鋼、百貨店・スーパーが「小雨」、建設が「薄日」となった。

今後は感染症による県内産業への影響は最悪期を脱し、改善に向かうものと考えられるが、回復のテンポは鈍いとみられる。10~12月期の天気図は、電気機械と百貨店・スーパーが「小雨」から「曇り」へ、輸送機械が「雨」から「小雨」へ改善し、建設が「薄日」から「曇り」へ悪化する見込みである。

主要産業の動向は、以下の通り。

- **一般機械**の生産は、前年を大きく下回った模様である。先行きについても、前年を下回る水準で推移するとみられる。
- **電気機械**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きは最悪期を脱し、徐々に回復していくとみられる。
- **輸送機械**の生産は、前年を大きく下回ったとみられる。先行きは減少幅は縮小するものの減少傾向が続くと予想される。
- **鉄鋼**の生産は、前年を下回ったとみられる。先行きについても、前年を下回る水準で推移しよう。
- **建設**は、前年並みで推移した。先行きは、民間工事でオフィス、サービス関連の需要減や設備投資抑制の影響が懸念される。
- **百貨店・スーパー**の売上は大幅減少、**スーパー**の売上は前年を上回ったとみられる。先行きもこうした傾向が続くと予想される。

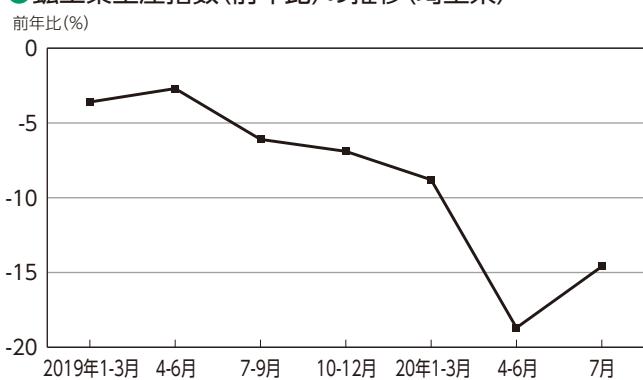
産業天気図



天気図の見方



●鉱工業生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指数」

主要産業の動向

(1) 一般機械…前年を大きく下回る

県内的一般機械(汎用機械+生産用機械+業務用機械)の鉱工業生産指数は、2018年7~9月期以降、前年割れが続いてきた。2019年10~12月期に前年比▲0.6%とほぼ前年並みの水準まで戻したものの、2020年1~3月期には再び同▲22.3%と大きく減少し、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発出された4~6月期は、同▲29.6%と減少幅が更に拡大した。

2020年7月の生産指数も、生産用機械の落ち込みが非常に大きかったことなどから、生産指数は前年比▲33.1%と大幅な前年割れとなった。7~9月期を通してみても、米中貿易摩擦の影響が残るなか、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って海外経済が大幅に減速したこと、輸出比率の高い一般機械の生産は落ち込んでいる。国内における企業の設備投資マインドの慎重化も加わり、一般機械の生産は前年を大きく下回った模様である。

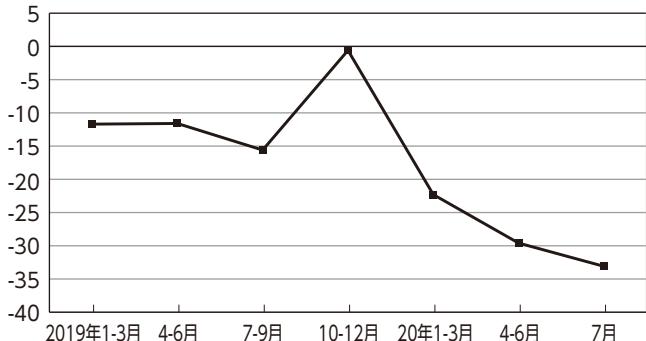
空気圧機器は、昨年秋口以降緩やかに生産が持ち直していたが、足元では前年を下回っている。歯車は、自動化・省力化機器向けが比較的堅調だったことなどから、昨年まで底堅い動きを続けてきたが、年明け以降は大きく落ち込んでいる。

全国の半導体製造装置は、前年に減少が続いていたこともあり、今年に入って持ち直している。県内の半導体製造装置の生産は月ごとの振れ幅が大きいが、ならしてみれば前年の水準を下回っている。昨年後半に大きく落ち込んだ医療用機械器具は、反動もあって緩やかながらも持ち直している。

世界全体でみれば、依然として新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかっていない状況があり、海外経済の持ち直しには相当の時間が必要になりうる。先行きも、輸出比率の高い一般機械の生産は前年を下回る水準で推移するとみられる。

●一般機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)

前年比(%)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指標」

(注)一般機械=汎用機械+生産用機械+業務用機械

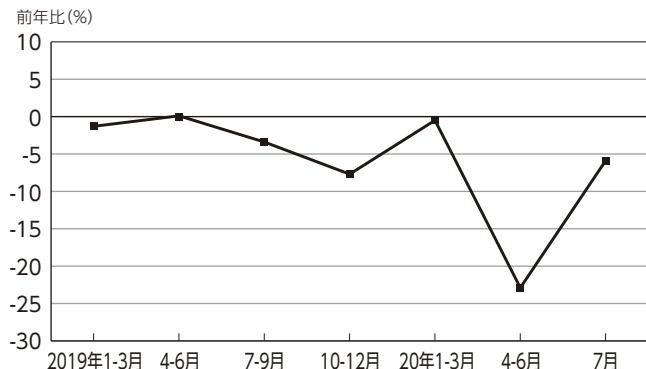
(2) 電気機械…前年を下回る

県内の電気機械(電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械)の生産指数は、2020年1~3月期前年比▲0.5%、4~6月期同▲22.9%と2019年7~9月期以降、前年を下回っている。1~3月期はやや持ち直しの動きがみられたものの、4~6月期は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自動車をはじめとした世界規模での生産の減少に連動したサプライチェーン全般の発注調整の影響から、電気機械の生産は大きく落ち込んだ。7~9月期の生産は4~6月期をボトムとして、徐々に回復しているものの、前年を下回ったとみられる。

電子部品・デバイスの生産は、2019年以降、中国経済の減速から自動車向け、産業機械向けの電子部品の需要が減少したことなどから、大きな落ち込みが続いた後、新型コロナウイルス感染症の影響により自動車や産業機械の生産が停滞する中、工場の稼働にも影響が出るなど大きく落ち込んだ。7~9月期は全般的な生産の回復を受け、徐々に戻りつつあるが、稼働率は依然低い。

電気機械は県内で生産されるものは、産業向けがほとんどである。県内で生産される電気機械の多くは、生産機械や情報システムなどに組み込まれる電気関連の部品や装置であり、組み込まれた機械は海外へ輸出されることも多い。このため、電気機械の生産は、企業の設備投資や海外経済の動向の

●電気機械全体の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指標」

(注)電気機械全体=電子部品・デバイス+電気機械+情報通信機械

影響が大きい。産業向けの電気機械は、海外での投資抑制の動きに加え、国内企業の設備投資も延期や見合わせの動きが出ていることなどから大きく減少している。

情報通信機械は、現在県内では業務用通信機器、計測機器および、カーナビ、カーオーディオが中心となっている。サプライチェーンを通じた生産の減少から4~6月期は大きく落ち込んだが、国内外での生産が回復してきたことなどから7~9月期はやや持ち直している。

先行きについては、国内外の生産全体の回復を受け、徐々に回復していくとみられる。自動車の電動化や電子制御の進展にともなう電子部品の需要増や、5G関連の基地局向け需要、デジタル化の進展に伴うデータセンター整備、防災、防犯関連の監視カメラや監視システムなどインフラ関連への期待も大きくなっている。

(3) 輸送機械…生産は前年を大きく下回る

乗用車:県内の乗用車販売台数は、4~6月期が前年比▲30.4%と新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出があり、1~3月期の同▲8.4%から減少幅が大きく拡大した。緊急事態宣言が解除された7~9月期は同▲11.7%と減少が続いているものの、減少幅が縮小し販売は改善に向かっている。減少していた来店客も、徐々に戻りつつあるようだ。

生産動向をみると、県内の輸送機械(乗用車・トラック・自動車部品等を含む)の生産指数は、新型コロナウイルスの影響で工場の一時稼働停止もあり、4~6月期は前年比▲47.2%とほぼ半減した。減少幅は5月の同▲52.2%をボトムに縮小してはいるものの、7月が同▲47.3%と依然として大きく減少している。

また、新型コロナウイルスの影響で海外での自動車販売も減少しているが、県内では輸出向けの生産は少ないため生産全体への影響は小さいとみられる。

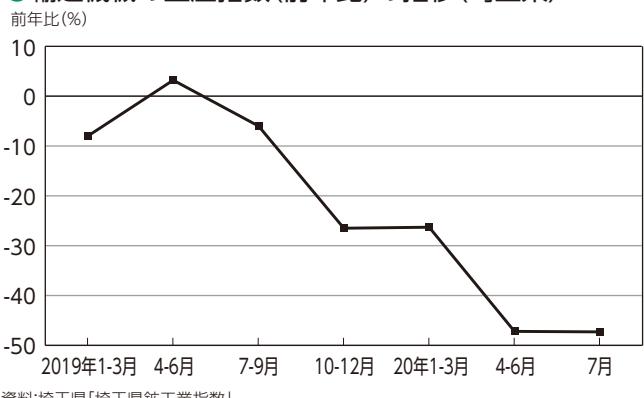
先行きについては、県内完成車メーカーの乗用車販売台数の減少幅は縮小しているものの、前年比二ケタの減少が続いていることから、生産の減少傾向はしばらく続くと予想される。

トラック関連:トラックの生産は、4~6月期に大幅に減少したあと、7~9月期は減少幅を縮小したものの前年をかなり下回って推移した模様だ。新型コロナウイルスの影響で海外景気が急速に悪化したため、トラックの輸出が大きく落ち込んだことに加え、国内販売の落ち込みもあり生産が減少した。

これまで国内のトラック販売は、首都圏の再開発、ネット通販の拡大、東京オリンピック関連の需要増に伴い増加してきた。しかし、オリンピック関連の需要は既に一巡したうえ、景気の落ち込みに伴い建設工事の遅れや計画の延期・中止が増えており、トラック販売の低迷は続きそうだ。

新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ景気は、

●輸送機械の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)



資料:埼玉県「埼玉県鉱工業指標」

最悪期は脱したとみられるものの回復の足取りは重く、企業の業績も悪化している。先行き景気は上向くとみられるが、その回復テンポは緩やかにとどまり、企業の設備投資も低迷するとみられる。トラックの生産もしばらくの間減少が続くと予想される。

部品メーカー:乗用車、トラックとも完成車メーカーの生産が大幅に減少しているため、部品メーカーの生産も前年を大きく下回った模様だ。

先行きについても、減少傾向が続くと予想される。

(4) 鉄鋼…前年を下回る

県内の鉄鋼の鉱工業生産指数は、2018年7~9月期に前年比横ばいとなった後は、前年を下回る水準で推移してきた。2020年4~6月期には、新型コロナウイルス感染症の影響も加わって、7四半期連続の前年割れとなっており、7~9月期も、鉄鋼の生産は前年を下回ったとみられる。

訪日外国人の増加に伴って、高い伸びを続けていたホテルの建設が一段落し、これまで堅調に推移してきた都内のテナントビルや、昨年夏場頃まで持ち直しの動きを見せていた病院や介護施設などの医療関連施設も、このところ着工がやや減少している。鉄筋コンクリート造に関しては、鉄筋組立工や現場監督といった建設労働者の不足が続いているが、足元の工事量の減少に伴って、不足感が解消しつつあるようだ。

マンションは、建設コストの増加を受けて価格の上昇が続いてきたことなどから、売れ行きが落ち込んでいる。マンション販売業者の多くは、発売戸数の絞り込みで対応しようとしているものの、一部では値引きを余儀なくされるケースもあり、新規着工には慎重な姿勢をみせている。

コスト面では、スクラップ価格は比較的低い水準で推移してきたが、足元では上昇の兆しがみられる。鉄鋼生産が増加しているベトナム向けなどを中心に、日本からのスクラップ輸出が増加した結果、市中

庫が減少し、価格が引き上がっている面もあるようだ。鋼材価格とスクラップ価格のスプレッドは維持されており、生産量が減少するなかでも、鋼材メーカーは一定の収益を確保できている。

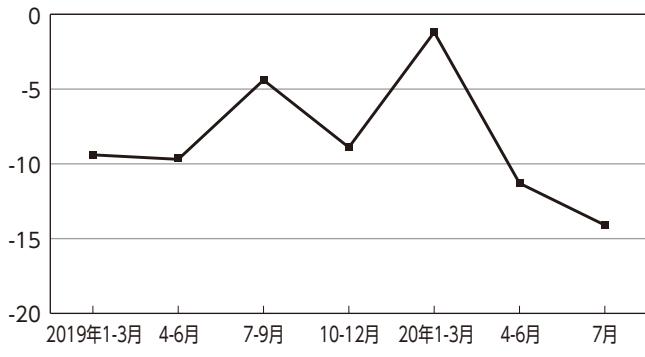
新型コロナウイルスの影響で、在宅勤務を行う企業が増えたことなどから、このところ都心部のオフィス需要は弱含んでいる。都内の再開発プロジェクトなど、先行きも一定水準の計画は見込まれているものの、感染の終息時期が見通せないなか、デベロッパーはテナントビル建設工事を進めることに慎重になっている。10~12月期の鋼材の生産についても、前年を下回る水準で推移しよう。

銑鉄鋳物の生産は、昨年夏頃までは比較的底堅く推移していたが、米中貿易摩擦の影響などで海外経済が減速するなか、輸出用の建設機械向けや工作機械向けを中心に減少してきた。2020年1~3月期には一旦減少に歯止めがかかったが、4月以降は感染症の影響で、国内外ともに需要が一段と落ち込み、鋳物の生産は前年を大幅に下回った。昨年の春先に落ち込んでいた鋳鉄管については、夏場にかけて持ち直した後は比較的底堅い動きを続けている。

需要の大幅な落ち込みを受けて、製品価格は弱含んでいる。鋼材向けのスクラップ価格が比較的安価に推移するなかでも、より高品質な鋳物用スクラップの価格はあまり下がっていない。電力料金や副資材価格の負担も大きく、収益が圧迫されている。

●鉄鋼の生産指数(前年比)の推移(埼玉県)

前年比(%)



当面、建設機械向けや工作機械向けなどは弱い動きが続くとみられることから、先行きの銑鉄鋳物の生産も前年を下回って推移するとみられる。

(5) 建設…ほぼ前年並みで推移

公共工事:県内の公共工事請負金額は2020年4~6月期前年比+4.2%、7~9月期同+19.4%と好調が持続している。公共工事の発注は順調で、建設業者の受注残は多く、足元の工事量も高水準で安定している。都内の大手業者が引き続き繁忙なため、県内業者の受注状況は価格面を含めて良好であり、相応の収益を確保できている。

老朽化したインフラの更新や補修の必要性が高まっており、建物のほか、河川、橋梁、道路なども改修・補修工事が多く、新規の建設案件は少ない。

先行きは、当面堅調に推移するとみられる。自然災害が多くなっており、災害対策や老朽化したインフラの改修などが期待されている。

民間工事:県内の非居住用の建築着工床面積は2020年4~6月期は前年比▲16.0%、7~9月期はプラスの見込み。民間工事の着工は、やや振れのある動きとなっている。ただ、受注残は相応にあり、工事量はほぼ横ばいである。

種類別では建て替え、補修を含めて病院、介護関連などの医療・福祉施設の工事が多い。設備投資の回復から好調だった工場やビルの改修、建て替えなどは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、見合わせるところも出ており、このところ減少している。商業関連やサービス関連も着工は手控えられている。新規着工には手控えがみられるが、都内の大手業者は引き続き繁忙で、県内の工事は県内業者が請け負っており、受注残は多く工事量は高水準で横ばいの状況が続いている。

先行きは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、企業の設備投資意欲減退の影響やオフィス、商業、サービス用の需要減が懸念される。

住宅:2020年4~6月期の新設住宅着工戸数は前年比▲8.7%、7~9月期も減少が続いている模様。

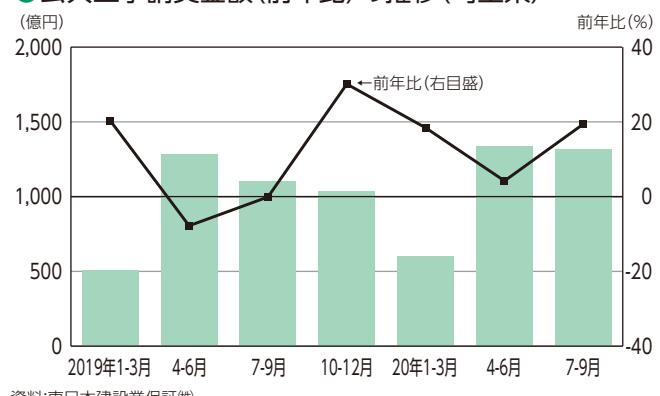
マンションは、価格が高止まりしており、全体として販売が不調なことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響で販売活動が手控えられたこともあり、4~6月期は販売戸数が大きく減少した。一部大型物件で販売が好調な物件があることや、販売戸数の調整もあり、契約率は若干上向いているものの、販売側の収益面も厳しくなっていることもあり、供給は手控え気味となっている。

戸建の分譲住宅も新型コロナウイルス感染症の影響を懸念し、土地仕入れや新規着工を絞ったことから着工戸数は減少している。一方、販売面は7月以降展示場への来客数も多くなっており、来場から契約に至る割合も上昇しており悪くない模様。

貸家は、空室率は低下傾向にあるが、供給過剰の懸念は依然強く、新規の着工は引き続き手控えられている。

先行きは、マンションは地価の上昇や好立地の土地の供給が少なくなっていることもあり供給の手控えが続くとみられる。戸建て分譲は郊外の需要が高まる期待もあり、堅調な推移が見込まれる。貸家は、引き続きやや弱含みの見込み。新型コロナウイルス感染症の影響については、所得面の不安が出てくると、購入に慎重な姿勢が広がることが懸念されている。

●公共工事請負金額(前年比)の推移(埼玉県)



(6) 百貨店・スーパー…百貨店は大きく減少・スーパーは増加

百貨店:7~9月期の売上は前年を大きく下回ったとみられる。緊急事態宣言により県内の多くの百貨店が食料品売場を除き臨時休業となつたため、4~6月期の売上は前年比▲47.0%とほぼ半減した。5月25日の緊急事態宣言解除に伴い営業を再開したが、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響もあり、売上の戻りは鈍かった。7月の売上は前年比▲14.6%、8月は同▲8.7%、9月も昨年の消費税率引き上げ前の駆け込み購入の反動もあり売上は減少したとみられ、7~9月期全体でも大幅な減少となつた。

来店客数と客単価をみると、来店客数は外出自粛の影響から大きく減っているが、客単価は前年対比微増となった。来店客数の減少ほどには売上が減っていないことから、客単価の上昇に加え顧客の買い上げ率が高まっているようだ。単に見るだけの顧客は減り、目的を持って来店する顧客が増えている。

品目別では、在宅需要の高まりから食料品やリビング関連が好調である。食料品は生鮮、一般食品とも増加し、外食に行かないかわりに肉や鰻など少し贅沢な食材を購入する顧客が多い。リビング関連ではフライパンや鍋などのキッチン用品や、家の中で快適に過ごしたいという需要から寝具が売れている。

一方、主力の衣料品は苦戦している。衣料品はこれまでも低迷が続いていたが、さらに落ち込んでいる。アパレル業界ではブランドの休廃止の動きもあり、商材が揃わぬで売上を落としたという話もあった。

先行きも、消費者の消費意欲は低く、景気悪化による所得の減少も懸念され、低迷が続くと予想される。対策として、ネット販売の強化や、店休日を減らし営業日を増やしたり、会員向けセールの開催日数を増やすことで、消費喚起を図る計画である。

スーパー:7~9月期の県内スーパーの売上は、前年を大きく上回ったとみられる。本年2月以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴う買いだめ需要や巣ごもり需要から、スーパーの売上は増加が続いている。

客数は前年並みで増えてはいないが、客単価はかなり上がっている。顧客は外出を自粛しており買い物頻度は落ちているが、1回の買い物で多くの商品を購入している。

品目別では、食料品の好調が続いている。「外出しない、外食しない、家でごはん」という傾向は変わらず、調味料やお酒、肉などがよく出ている。料理に使うキッチン用品・生活雑貨などの住居関連用品の売れ行きもよい。一方、衣料品や靴、化粧品は不振が続いている。顧客の動きをみると、買い物時間を少なくし、1カ所で手短く買い物を済ませている様子がうかがえる。ゆっくり見て回ることはなく、衣料品売り場にはなかなか足を運ばない。

非接触にこだわる消費者も多く、ネットスーパーの利用が急増している。玄関先に商品を置き、配達員と接しない置き配も人気だという。また、買い物をする時間が昼間にシフトしており、夜の売上が落ちているため、閉店時間を早めたところがあった。

先行きについても、これまでの傾向は変わらないとみるところが多い。全体としては売上の増加は続くものの、食料品関連は好調、衣料品は不振と、好不調の差が大きい動きとなると予想される。

●百貨店・スーパー販売額(前年比)の推移(埼玉県、既存店)

